

## 火成岩・変成岩年代からみた西南日本とコリア半島の対比

伊藤英文・木下 修 (大阪府大・総合)

我々は、火成岩年代の地域変化を調べることに  
より、アジア大陸東縁帯中生代火成岩帯は、海側  
に位置する新帯とその陸側の旧帯の二つに分けら  
れ、両者の活動は縁辺に沿って南西から北東へ30km/  
Maの速度で移ったことと、それらがコリア半島  
を通過したのはそれぞれ約170Maと100Maであつ  
たことを示した(木下・伊藤,1988,地質雑). この  
規則性を利用すれば、コリア半島に対して西南日  
本の古位置を復元できる. その第一歩として新帯  
の半島東南部の仏国寺花崗岩帯は西南日本火成岩  
帯に連続することを示した. 本報ではさらに旧帯  
の三郡帯と半島の大宝花崗岩帯について検討する.  
それより先我々は、高圧型の三波川変成岩年代の  
地域変化が、対をなす低圧型の領家変成岩年代の  
それと一致するのみならず、両者は内帯火成岩年  
代の地域変化の傾向を海側へ延長したものである  
ことを示して、三者は一連の出来事であるとした  
(木下・伊藤,1986,地質雑).

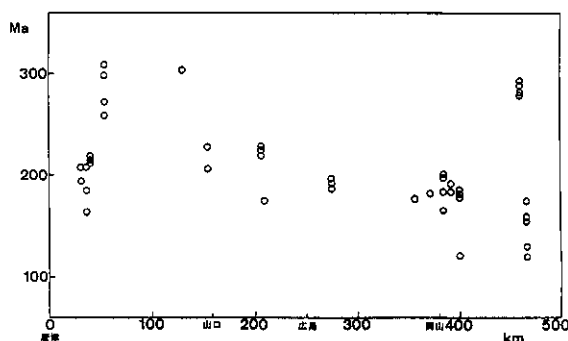
三郡変成岩(高圧型)の年代について近年詳しい  
検討を加えたものが出された(柴田・西村,1989,地  
質学論集). これを用いて第1図の地域変化図を  
作った. 三郡変成帯の方向をMTL方向に平行と  
みなして、横軸は試料採取地点をMTLへ投影し  
た距離である. 第1図より、データは少ないが横  
軸に対して変化しない280Ma前後の古期変成岩群  
と、横軸方向に明らかに若くなる220~170Maの  
新期変成岩群があることが読取れる. 前者は後者

よりも大陸側に分布し、古生代末~三疊紀変動に  
関係したものであろう. 後者がジュラ紀変動に対  
応する. 第1図に隠岐の片麻岩年代をプロットす  
ると、新期変成岩の傾向線上に乗り、隠岐帯と三  
郡帯とは対をなす変成帯と考えられる.

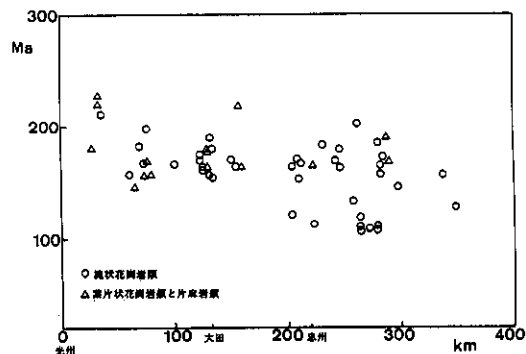
「Geology of Korea」(1987)に、コリア半島の  
火成岩、変成岩の放射年代がリストされている.  
第2図はその資料に基づいて作ったジュラ紀大宝  
花崗岩類年代の地域変化図である. 大宝花崗岩は  
主に、シニアン方向(N30° E)の沃川帯に分布  
するので、横軸はその方向に取ってある. 第2図  
に記入した葉片状花崗岩類は沃川帯の南東側に分  
布する傾向がある. 片麻岩類はそれに隣接する小  
白山陸塊中にも分布する. 第2図より年代値の分  
布は全体的にみて明らかに横軸方向に若くなる.  
さらにシニアン方向に垂直方向(N60° W)の年代  
分布図をも作った. それらは内陸方向に若くなる  
傾向を示す. 花崗岩と低圧変成岩の年代が以上の  
ようにシニアン方向の北北東へ、そして内陸部へ  
と若くなる規則性は、新帯の西南日本内帯火成岩・  
変成岩について得られた規則性と類似である.

第1図と第2図はほぼ同じ年代を示し横軸方向  
に若くなる傾向も同じで、旧帯の規則性に合う.  
この事実は三郡変成岩と大宝花崗岩とは旧帯に属  
し一連の成因によることを示唆している.

(1988年冬の例会)



第1図.三郡変成岩年代のMTL方向地域変化



第2図.大宝花崗岩年代のシニアン方向地域変化